

セラミックス岡山

CERAMICS OKAYAMA

OKAYAMACERAMICS CENTER

(岡山セラミックスセンター)

財団の運営指針について



一般財団法人岡山セラミックス技術振興財団

理事長 矢吹 巧

平素から、当財団の運営に当たり、格別のご理解・ご協力を賜っております。この場をお借りして、心から感謝申し上げます。

この「セラミックス岡山」ですが、従来の年4回発行を今年度から年に1～2回の発行として当財団の基本的な活動方針等をお知らせすることに装いを改めます。その代わりとして、メールマガジンの随時発信を行い、財団研究のトピックスや測定分析機器の紹介などよりタイムリーな発信に努め、情報発信の強化を図ってまいりたいと考えております。

さて、耐火物の使用実績の8割を占める鉄鋼産業ですが、人口減少による内需低迷や中国などの台頭により、高炉など過剰な生産設備の休止の動きが加速しています。また、2050年度を目標とする脱炭素社会に向け、大規模な再構築が始動しています。そのため、それを支える耐火物関連産業も今後の動向を注視しながら、時代に即した対応を図る必要があります。

鉄鋼をはじめとする高温産業は、現代生活を送る上で必要不可欠なものであり、関連する耐火物産業界の進展と地域経済の活性化に向け、引き続き当財団におきまして、各種事業の展開を図ってまいれる所存です。

研究開発では、これまで進めてきた高機能耐火材料について、電気特性などの特性調査を進めながら焼結促進効果の高い添加剤としての可能性を探索してまいります。また、昨年度から取り組んでいるカーボンヒーター炉を用いた超高速加熱技術を活用して、接触角や熱伝導率測定など新たな測定技術開発を行うほか、合成ガス炉システムを用いた各種還元性ガスによる耐食性評価技術開発を行うなど、高温特性に係る新評価技術の確立を図ってまいります。

測定分析では、今年10月からICP分析装置や原子吸光分析装置を稼働させることにより、従来分析が出来なかった軽元素や微量成分の分析を始めます。原料分析の重要性を再認識し、耐火物産業の体力強化に繋がるよう分析センターとしての機能強化を図ることとしております。

人材育成では、昨年残念ながら実施できなかった耐火物の基礎学問研修をオンラインにより5月に開催し、多くの皆さんの参加を頂きました。8月には、昨年度から開始した耐火物工学セミナーを実施し、産業界の若手・中堅社員の能力向上に繋がるよう支援したところです。

当財団には年間4千件程度の技術相談が寄せられます。そのうちの半数程度が、専門外とか装置不足により期待に応えることが出来ておりません。そのため、財団外の各種機関の協力を得るネットワーク構築を従来以上に進め、より信頼される財団を目指していきたく考えています。

今後とも、皆様方には当センターを積極的に利用頂き、耐火物関連産業の進展を目指してまいりたいと願っておりますので、引き続き、ご支援賜りますようよろしくお願い申し上げます。